

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991600016		
法人名	社会福祉法人 関記念 柘の木会		
事業所名	認知症高齢者グループホームいしばし		
所在地	栃木県下野市上古山569-1		
自己評価作成日	平成 25年 11月 16日	評価結果市町村受理日	平成26年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成 26年 1月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>全職員が、認知症の特性を理解し、症状として現れる行動障害は、上手く伝えられない高齢者の反応である事を念頭に置き、その事を問題として扱うのではなく、傾聴と寄り添いの気持ちで接し、小さな泣きを聞き逃さず、訴えた事を理解し受け入れる事で不安を取り除くようにしている。施設開所当初からの2つのケアの理念に基づき、「敬う心と優しい心」を実践している。接遇改善委員会では、毎月目標を設定し、唱和する事でご利用者主体の生活支援が行われるよう努めている。朝のミーティング時には、介護接遇マニュアルを参照し、日替わりで代表者が読み上げる事で自己啓発に努めている。地域との連携にも力を注ぎ、自治会との協力体制を強化すると共に、近隣の行事に参加し、社会的な活動が継続されるよう図っている。御家族様へは、毎月の「いしばし通信」や、日ごとの出来事を綴った「生活の一こま」を送付し身近に活動の様子が伝わるように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、下野市の北部を横断する北関東自動車道の北に位置し、周辺には農地も点在する閑静な住宅地に立地している。昨年12月には、駐車場を挟んで、同一法人が運営する地域密着型特別養護老人ホームが開設され、防災対策等での連携が期待される。当事業所のケア理念は、「うさぎのような大きな耳でご利用者の声を聴きのがしません」「高齢者を敬い優しい心と笑顔で寄り添います」の2つであり、全職員が日々実践につなげるよう努力している。職員の知識や技術の向上には熱心に取り組んでおり、適時、研修を実施しているほか、接遇改善・事故防止・感染症対策・環境美化・広報・行事等の各委員会を設けて職員会議の充実を図り、運営の見直しや改善につなげている。また、家族との連携を推進するため利用者の様子を毎日1行づつ綴り、「生活の一こま」として月単位でとりまとめ、家族に送付している。地域とのつきあも良好であり、防災対策や相互の行事等を通して交流が深まっている。室内は採光が良く、食堂は広くゆとりがあり、居室も広く暖房・エアコン・洗面台・家具等が整備され居心地良く過ごせるよう配慮されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の3つの理念とグループホームとしての2つの理念を全職員が理解し、実践に繋げている。従来の禁句集を再編成し「介護接遇マニュアル」とし、介護人としての心得や言葉づかいを毎朝確認し、ご利用者主体のケアに活かしている。	法人の理念及び職員の話し合いで策定した事業所の理念は、職員会議や毎朝のミーティングで確認し、全職員に良く理解されており、実践につなげている。また、理念につなげるために「介護接遇マニュアル」を策定し、日々のケアに活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、広報誌や回覧板を通し地域の情報を共有している。3自治会長の協力を頂き夏祭りの開催参加と地域の皆様にも周知し夏祭りに来ていただいている。育成会の廃品回収や神輿の渡御への協力、小学校への運動会や田植えの授業を参観させていただいた。	地域も好意的であり、地元自治会に加入して回覧板もまわり、地域の一員としてつきあいをしている。地域の諸行事への参加、小学校との交流、事業所の夏祭りでの交流など、良好な関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症の症状や対応について話し合う機会を持っている。また、実際に起こっている状況とその対応について報告を行っている。入居相談時にも認知症についてお話をさせていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の防災対策についての理解を深め安全対策についてアドバイスを頂いている。近隣協力者として緊急連絡網の中に入っていたいただき有事の協力を約束していただいた。地元消防団とのつながりも継続できている。夏祭り実行委員会への積極的な意見交換を行い成功に至っている。	市職員、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族、法人役員、事業所を構成員として、2ヶ月に1回開催している。会議のメンバーは議題に応じ柔軟な選定に努めている。防災対策やボランティアの活用など、意見をサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、活動状況の報告を行い施設運営の実態を知っていただく。包括支援センターへは、在宅から入居されたご利用者の状態報告など密に行う。入居相談や在宅からの相談など情報をつなげる様に行っている。タウントーク開催への情報提供を行った。	市高齢福祉課長が運営推進会議の構成員になっており、その際に事業所の状況を伝えていく。また、緊密に連絡を取っており、市長と市民とのタウントークが開催された際は、招請を受け、事業所の状況を報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの理解と実践のため、内部研修会を行っている。施設の身体拘束廃止推進マニュアルと身体拘束廃止については5つの方針と身体拘束廃止に向けての3つの原則を徹底して相互理解を図っている。玄関は施錠を基本としている。土地感が無い方の入居が大半であり、ご利用者の安全の確保を第1と考えている。	身体拘束をしないケアの理解を深めている。実践につなげるため、厚生労働省の資料に基づき、内部研修会を実施している。また、言葉による拘束にならないよう、禁句集を作成し、全職員に周知徹底を図っている。	事業所が道路に面しているため、交通事故防止の観点から、玄関は施錠を基本としているとのことだが、設備の改善を含め、工夫をこらして対処することの検討を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティング時、職員会議の席上で、ミニ研修会を実践している。ご利用者は人生の先輩であり、敬う気持ちを大切に、やさしく支えることを諭している。介護接遇マニュアルの中にある「心得」を特に推奨している。			

認知症高齢者グループホームいしばし

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	独居の方がアステラスを利用されており、利用料金の振込みやお小遣いの金銭管理を依頼している。配偶者が亡くなり、家族間の不和から財産管理のためご家族の意思で成年後見人の申請を行った所、裁判所の決定により、弁護士にゆだねる事となった。随時連絡を取り合い支援している。職員への説明も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は入居前に説明し納得の行くまで確認していた。内容の確認把握については口頭及び書類を検討していただき署名を頂くようにしている。退去については判定用紙を参考にして頂き、理由の所在を明確にする。改定時については都度案内分を送付し理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者への聞き取り調査を行い、利用満足度を伺っている。御家族様にはアンケート調査にご協力を頂き、施設運営の参考にさせていただいている。面会簿の所にアンケート用紙を置き、随時記入していただけるようにしている。	利用者や家族から聞き取りをしているほか、年1回、家族にアンケート調査を実施し集約している。また、毎月、広報紙「いしばし通信」を家族に送付し、より多くの意見等を出してもらえよう配慮している。意見・要望等は運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のミーティング時、また気付きのあった時は随時、職員の意見を伺う機会を持っている。業務の見直しや追加など積極的に取り入れている。各委員会活動や行事企画などで積極的な意見が出されている。	職員会議や朝のミーティング、各委員会活動等において、職員からの意見、提案等を聞いている。また、法人の役員が週1回来所し、管理者と意見交換している。職員の意見は運営に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時には契約内容や本人の意志の確認を行い契約書を交わしている。資格取得のための勉強会への参加や勤務体制の配置を行っている。各委員会活動、行事の企画運営、居室担当を持ち責任ある業務に当たる事でやりがいのある職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への参加の機会を与え、個々のスキルアップに努めている。研修会への参加は復命書での報告及び職員会議、内部研修での振り返り研修を行い他の職員への波及を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にあるグループホームとの交流は、相互に訪問しあい文化祭や夏祭りのイベントを通し活動内容やご利用者の反応など見ながら施設運営に役立てている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みをされる際に現状の把握をする。入居候補に挙がった時に訪問をし、面接を行う。ご本人やご家族の意見や希望を伺う。必要に応じ、宿泊体験を行い相互の理解を深める。また、ケアマネの同席を依頼したり、意見を頂き密に連携を取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や相談に随時対応している。入居待ちの方への近況なども定期的に伺うようにしている。お困りごとの相談なども随時応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の聞き取り調査で現状の把握と今後の支援の方向性を確認し、最適な支援が受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のリハビリやレクリエーション又、毎月の行事において外出や食事の楽しみを共有している。昼食は同じテーブルに着き食事をしながらコミュニケーションを図っている。御誕生日にはお祝いの言葉を贈ると共に、希望を取り入れた支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはゆっくりお話が出来るように心がけており、お茶のおもてなしや日々の様子をお話するなど情報の提供を行っている。年に何度かある大きなイベントにはご家族に参加を呼びかけ良い思い出になるように企画している。毎月送付している通信や生活の一コマでは日々の様子が伝わるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設間の交流を図り、デイサービスでの友人との交流や家族知人との電話の取次ぎ行事への参加などを呼びかけ、継続的な関係が維持できるように支援している。	家族や友人などとの、これまでの馴染みの関係を大切にして、できるだけ途切れないように支援している。また、お祭り等の地域行事や美容院、外食、買い物等馴染みの場所への外出も、家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や認知度の違いがあるものの常に同じ様に声をかけ、皆で成し遂げ喜びを共有するように心がけている。例えば手工芸で大きな作品に挑戦し、皆で協力をして製作し達成感を味わっている。今年の大作は市民芸術際出品の為の作品の「赤富士」模造紙1枚分の作品が出来た。文化祭への展示を行った。		

認知症高齢者グループホームいしばし

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の関係者に対し、一般状態や習慣、好み、これまでのケアの工夫など情報の提供をし、住替えた後もストレスにならないように支援している。ご家族の納得のいくまで説明に応じており住替え後も同法人の施設でお会いした時は、声を掛けさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや希望を把握する為、呟きや独り言も聞き逃さず傾聴に努めている。当施設の理念でもあるように「小さな声」を大切に受け止めようと普段から心がけている。本人に寄り添い、悲しみや苦しみを少しでも緩和できるようにしている。個々の嗜好にも留意し楽しんで食事ができるよう配慮している。	現在、言葉を失っている利用者はおらず、日常の会話や表情などから、本人の思いや希望の把握に努めている。また、利用者の呟きや独り言にも注意を払い、意向を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らし方シートの活用により、生活歴や趣味、習慣などの情報を得ている。日々の会話の中から得られた情報については、経過記録や連絡ノートに記載し、全職員での共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、ケアプランの実施表、温度板、ミーティング記録などに記入し、活動の様子がわかるように工夫している。担当職員は日々の状況に応じた趣味活動やゲーム、グループワークなど行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望やご家族の要望を取り入れ共同生活を軸としながらも個人の生活が維持できるように支援に努めている。ケアプラン実施表・ミーティングで出されたケアのアイデアや方向性を参考とし、介護計画の作成をしている。	本人・家族の希望、経過記録等を踏まえて検討し、介護計画を作成している。初回は1ヶ月後、その後は3～6ヶ月ごとに見直しを行い、関係者の意見等を取り入れ、現状に即した計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録は日勤と夜勤帯を色分けし、その他特に変化のある時は、時系列に沿って記録する。連絡ノートへの記入で全職員への周知徹底を図る。24時間シートや生活のパターンシートをの活用で計画の見直しや医療機関との連携に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や病院受診の付き添い・薬の受け取りなどご家族が対応できない時には、要望に応じて施設対応をしている。散髪や歯科往診、買い物など希望に応じた対応に努めている。移動のメガネ屋さんの介入により施設での眼鏡矯正が可能になった。		

認知症高齢者グループホームいしばし

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月2回の傾聴ボランティアの方達との交流や不定期に行われる音楽ボランティアの方との懐かしい歌を通しての交流など長いお付き合いの中で顔見知りとなり個々を知って頂きその場の会ったお話が出来ている。近くの小学校の運動会見学や田植えの学習見学を通し相互に交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族にかかりつけ医への定期受診を勧めている。受診が困難となった方についてはご家族の要望で往診をお願いしている。現在は4名の方が定期往診を行っている。往診時同席し、状況報告と薬の調整について伺い、ご家族に報告をしている。	これまでのかかりつけ医との関係を尊重し、継続して受診できるよう支援している。通院が困難な場合は、家族の希望を踏まえ、協力医の往診を支援している。主治医には利用者の状況を伝え、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の運営する特養の看護師に随時相談できる体制が整っている。リーダー会議や職員会議、看、介護主任会議では情報の交換やアドバイスなど頂き、受診のタイミングや処遇に活かしている。往診時にも医師や看護師との情報の交換が出来ており適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族との連絡を密にすると共に病院を訪れ状態の確認を行うようにしている。カンファレンスに同席し、意思やりハビリ担当との意見の交換を行い退院後の生活の方向性についての確認をしている。地元にある石橋総合病院地域医療連携部との良好な関係を持ち、緊急時対応が素早く出来るような関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に至った場合には、施設でのハード面からの困難事例や在居判定シートを参考にご家族に説明し話し合いを持っている。入居の段階から重度化になったときのことについては、同法人への特養への住み替えなどを含めた説明を行い納得された入居となっている。	入居の段階から、重度化に至った場合の対応について説明している。現実となった場合は、在居判定シートを作成し、家族と話し合いを行い、同一法人が運営する特養ホームへの住み替えなどを勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故を想定し内部研修に取り上げ実践力を養っている。又、ノロウイルスや感染症に対する予防や対処の方法についてもマニュアルの見直しや各自確認の徹底を促がし、定期的な研修会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、様々な場面での想定の中で防災避難訓練を行っている。(昼間、夜間、地震、通報召集、総合避難訓練)通報訓練では、地域の方の協力も頂いている。総合避難訓練では、消防署立会いの中、初期消火、通報、避難誘導など行い指導を頂いている。地元消防団の方の協力も頂き避難誘導に加わっていただいている。災害時備蓄も備えている。	月1回は避難訓練を行っており、夜間を想定した訓練も行っている。緊急連絡網には、地元の方6名を通報先に登録し、協力を頂いている。総合訓練には、地元消防団も参加している。水、食料品等の備蓄も行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>接遇改善委員会を中心に、ご利用者さまへの対応について目標を作り毎日の唱和と介護接遇マニュアルの読み上げ徹底により、介護の心得を重要視している。又、禁句、禁止用語を明解にする事でわかりやすくしている。「敬う心と優しい心」は常に全職員のもっとうとなっている。</p> <p>毎朝のミーティングで、介護接遇マニュアルを読み上げ、利用者的人格やプライバシーを傷つけない言葉づかい、対応を確認している。職員会議では、ロールプレイングを行って理解を深めている。</p>
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>ご利用者に寄り添いながら傾聴に努め、認知症にありながらも発する言葉から、真意を汲み取るように努めている。スキンシップにも心がけ安心していただけるようにしている。認知症への理解を深めるためミーティングなどでミニ研修を行い個々の研鑽に励むようにしている。</p>
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>日々の心身の状態に応じ、リハビリやレクリエーションへの参加を促がしている。無理なお誘いはせず自室で過ごされる方には、個人のペースを尊重し遠くから見守りを行う。スケジュールは決めず、その時に応じたゲームやカラオケ、音楽鑑賞、趣味活動を提供するようにしている。</p>
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>外出時の服装についてはご本人様との話し合いで用意をしている。季節に応じた衣類の準備については御家族様は勿論ですが、ご本人の好みのものが購入できるように外出支援とサポート、アドバイスをを行う。入浴準備はお任せする方と一緒に準備する方に別れておりお好みの衣類が準備できるように配慮している。タンスにはラベルを貼り収納し易く出しやすい工夫をしている。</p>
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>季節感を大切にして味付けや盛り付けに気遣っている。好みのものに配慮したり、形態を食べ易くするなどの工夫を行っている。行事食や外食などで変化をもたせている。ボランティアさんのそば会ではこねて、伸ばして、切っなど実演を観てからの実食は楽しみになっている。お片づけは職員と共に食器拭きをして頂いている。</p> <p>同一法人の特養の献立を利用し、職員が調理している。利用者は食器の片付けを手伝っている。食材の買い出しには、利用者も同行している。行事食や外食、月1回のそば打ち実演など、食事が楽しめるように努めている。</p>
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>水分摂取のための声掛けや毎食の食事量の確認を行い温度板への記入を行っている。お茶の時間に出て来られない方には居室へ届けている。体調不良時には24時間シートを活用し、全職員が統一したケアが出来るように努めている。</p>
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>口腔ケアは、毎食後の習慣であり、必要に応じ声掛け、介助、見守りを行っている。不具合が生じた時には、歯科受診や往診を勧める。リハビリ時には、健口体操、パタカラ体操、フェイスマッサージなどを取り入れている。嚥下困難にならないよう首や方の体操にも力を入れている。</p>

認知症高齢者グループホームいしばし

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活パターンシートで個々の排泄パターンを把握し、誘導と見守り、排泄介助に努めている。トイレでの排泄を促がし出来るだけトイレでの排泄が出来るように促がしている。夜間と日中の排泄の工夫をし自力での排泄を尊重し、失敗が少なく危険が伴わないよう努めている。	現在、日中、夜間を通し、おむつを使用している利用者はいない。一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りと誘導により、全員がトイレで排泄している。誘導の際は、誇りを傷つけないよう配慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトの摂取は必須となっている。乳酸菌を多く含むヤクルトを飲む事や内服薬の調整、運動やレクリエーション参加、水分摂取でスムーズな排泄が出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに週3回の入浴が実施されている。昼食後1時間を経過してからの開始で、日によりその時の状況に応じ順番や時間はバラつきが見られている。拒否がある時はタイミングを見計らってお誘いする。声掛けにも工夫が必要とされ納得して入浴に向える様配慮している。	1日4～5人が、一人週3回のペースで入浴をしている。利用者全員が一般浴室で入浴しており、特別浴室もあるが現在は使用していない。利用者の希望や体調等に配慮し、ゆっくり入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のスタイルに合わせた支援を行っている。自室でテレビを見る、読書をする、日記をつける、など。就寝までホールでテレビや新聞を見る方もあり、ご本人たちの生活の流れを重視している。昼寝は長くならないように適宜声掛けを行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬一覧を参照し、個々の内服の状況、効能、副作用が確認できるようになっている。内服介助は、準備、服薬介助など複数で対応している。誤配のないように注意をしている。状況の変化はミーティングで報告し、ご家族、医師への情報に役立てている。薬の変更については連絡ノートを活用し周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリや散歩など日課として取り入れている。特技を活かし、下野市市民芸術作品展示の為に製作や日常生活で使用する雑巾縫い、チランを使ってのゴミ箱折りなど普段使いに役立てている。特養までのゴミ捨てはミニドライブとなりよい気分転換となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な散髪やショッピング、誕生日企画の外食など本人希望を取り入れながら支援をしている。春と秋には全員参加の旅行を企画しており、春は下野市ご招待の花見であり秋の旅行はご希望を伺いながら行き先を決めている。御家族様にも呼びかけて参加をお願いしている。	散髪、買物、外食などで定期的に外出している。また、駐車場隣の小さな畑で利用者・職員一緒に野菜作りをしている。春と秋には全員参加の旅行を実施している。地域の行事にも積極的に参加し、外出の機会を設けている。	

認知症高齢者グループホームいしばし

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>施設でのお預かり金は不定期に入金をして頂き、随時職員と共に利用している。毎日の預かり金の確認と年2回の収支報告を行っている。自己管理をされている方とそご家族には紛失時にトラブルにならないよう、金額や対応について理解を頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>基本的に制限はなく、希望に応じて電話をかける、かかってきた電話を取り次ぐ事を随時行っている。手紙を投函したり、送られた手紙やはがきを代読して伝えることもある。贈り物があったときは、到着の知らせなどご本人に電話をかけていただくようにしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間には、花や置物を工夫し季節感を味わっていただけるようにしている。ご利用者の作品の展示や行事の写真を掲示し、外出や行事の様子を伝えるようにしている。食堂は自然の光が差し込み格子で組まれた木の温もりが暖かい雰囲気をかもし出している。ソファ一席や花びらテーブル、テラス席などでおのおのが過ごせる環境を持ち、フットマッサージ器は癒しのアイテムとなっている。</p>	<p>室内は採光が良いため明るく暖かみのある雰囲気となっている。室温や内装等も不快や混乱を招くような刺激が無いよう配慮されている。食堂ホールは広くゆとりがあり、季節の花が置かれ、行事の写真や利用者の作品(書道、折り紙)、絵画などが飾り付けられており、生活感や季節感を感じさせ居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやテーブルの配置など一緒の空間にいらながらもそれぞれの時間を過ごしている。お話の合う人同士で一緒に座ってゲームや手芸を楽しみ、情緒不安定な方は、離れたキッチンカウンターや談笑コーナーで職員と会話をしたりと状況に応じた対応が可能となっている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室へは入居当初より、生活をあまり変えないような工夫をしており、テレビ、仏壇、冷蔵庫、応接セットなど個々に対応している。床暖やエアコンの整備、加湿器に整備、などで年間を通し住み心地の良い環境の提供に心配りをしている。</p>	<p>居室は全て南側に面しており、11畳の広さでゆとりがある。床暖房、エアコン、洗面台、ベッド、クローゼット、整理ダンスが備えてあり、利用者は使い慣れた物や好みの物を持ち込んだり飾り付けをして、居心地よく過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室には表札を出し、自室の確認が出来るようにしている。トイレには案内板をつけわかりやすくしている。食卓にはネームを貼り自ら着席できるようにしている。ダンスには整理収納しやすいように種別のラベルを貼り、自己管理が出来るようにしている。</p>		